

【長崎市中央部・臨海地域の指定の背景】 P1 都市・居住環境整備重点地域に国土交通大臣が指定。(H20.12.26)

- 長崎市は、昭和24年の長崎国際文化都市建設法制定、昭和52年の国際観光文化都市への指定など、世界平和を基調として、わが国における文化及び国際親善の中核都市としての役割を担ってきた。
- 長い交流の歴史の中で築かれてきた「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」や、わが国の近代工業化の原動力となった「九州・山口の近代化産業遺産群(端島・高島等)」といった世界遺産候補、世界恒久平和を願う被爆地長崎市のシンボルゾーンである平和公園、江戸時代にわが国で唯一世界との窓口であった史跡「出島」など、世界的にも価値の高い文化・観光資源が数多く存在し、これらを活用した観光立国を牽引する都市としての役割も期待されている。
- 観光立国(ビジット・ジャパン)を牽引する都市である「国際観光文化都市・長崎」の再生という観点から、平成20年12月26日に国土交通大臣により都市再生総合整備事業の実施区域(都市・居住環境整備重点地域)として指定を受けた。

【現状・特性】 P2~P9

- ◆平和活動
 - ・世界平和を基調として文化・国際親善の中核都市として役割を担う。
 - ・国内外に向け核兵器の廃絶と恒久平和を発信し続けている。
 - ・2020年夏季五輪の広島、長崎両市共同開催に向け、誘致検討委員会を設け、誘致の可能性や課題について検討を進めている。
- ◆人口
 - ・昭和60年をピークに減少。(H42)総人口約2割、若い世代約4割減少。
- ◆産業
 - ・観光消費額は農業・水産生産額の合計の3倍強、観光は主要産業の一つ。
- ◆観光動向
 - ・観光客数はH10の約670万人をピークに減少。H18さるく博等により減少に歯止めがかかり、増加に転じ、近年3カ年は横ばい(H20:556万人)
 - ・長崎港への国際観光船の寄港数は近年増加。H18、H19は日本一。(H21は45隻の予約)
 - ・近年、東アジアを中心に外国人宿泊客増加。(H16→H20 74%増)
 - ①韓国②台湾③アメリカ④中国⑤シンガポール、中国人旅行者の増加が予測。
- ◆土地利用
 - ・市街地中心部には中高層マンションの立地が進む。・公園・緑地が不足。
- ◆交通機能等
 - ・JR長崎本線連続立体交差事業、長崎駅周辺土地区画整理事業実施中。
 - ・九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)建設中。
 - ・松が枝国際観光船ふ頭。日本最大10万総トン級岸壁(H20)、ターミナル(H21)、緑地(H22)
 - ・大波止の長崎港ターミナルは離島航路(五島列島・伊王島・高島)の発着地点。
 - ・国内外との広域交通機能が飛躍的に高まりつつある。
- ◇特性
 - ・平和都市として期待されている地域。
 - ・重層的な歴史に培われた特徴ある文化を持つ地域。2つの世界遺産候補を有す。
 - ・地形的な要因から環境負荷の少ない都市構造が形成された地域。
 - ・国内他都市ではつくりえない、海・港の特徴的な風景を持つ地域。
 - ・広域交通機能の強化により観光・交流人口の拡大が期待されている地域。

「平和の発信地」としての役割 P13

- 平和学習、平和交流、講演会、イベント等により、被爆の実相を実際に見て、聞いて、学んでもらうなど、被爆地にしかできない取り組みを推進しており、国内外の幅広い年齢層の来訪者にゆくり見てもらえる「平和の発信地」として整備を推進する。

世界の平和の動向(核兵器なき世界) P6

- チェコのプラハでアメリカのオバマ大統領が「核兵器なき世界」を目指すことを明言。(H21.4.5)
- 国連安全保障理事会が核不拡散と核軍縮に関する首脳会議で「核兵器なき世界」を目指す決議を採択。(H21.9.24)

「観光の発祥の地」としての役割 P13

- 「観光」という言葉は、中国の四書五経の一つ「易経」の一節「觀国之光、利用賓于王(国の光を観る、もって王の賓たるに用いるによるし)」に由来し「地域のすぐれたものを観ること、観せること」を意味する。現在、一般に使われている「観光」よりも幅広い意味を持つ。
- 日本では、安政2年(1855年)長崎の海軍伝習所にオランダから贈られた蒸気帆船にこした意味を込めて「観光丸」と命名されたことから、「観光」という言葉が日本で最初に使われたのが長崎であり、長崎が観光の発祥の地といえる。

広がる観光のとらえ方(観光政策審議会「今後の観光政策の基本的な方向」) P13

- 「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行うさまざまな活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの」(H7.6.2)
- 「いわゆる『観光』の定義については、単なる余暇活動の一環としてのみ捉えられるものではなく、より広く捉えるべきである。『観光の意義は人々にとって地域の歴史や文化を学ぶ機会など。』(H12.12.1)
- 観光の定義は、余暇時間の中での遊びから学ぶ機会など、幅広く変化。また、場所選びから目的へ、体験から感情へ、と変化している。

長崎は日本のまち歩き観光をリード【今回追加】 P14

- 日本で初めてのまち歩き博覧会「長崎さるく博'06」の成功により、全国的なまち歩きブームが到来している。長崎は観光のトップランナーとしての地位を目指している。
- また、地域文化への愛着や誇りを持つ市民が増加し、まちづくりへの機運が高まり始まりつつある。

この地域が目指す観光のあり方 P14

- 長崎の魅力を実感し、様々な感情を共有し、大きな感動を得て頂くことを目指していくものである。そのためには、長崎の歴史・文化・生活・平和都市としての魅力など多様な資源を更に磨き上げ、これらの資源を「さるく」というまち歩きも活用しながら、円滑で快適に巡ることができるような環境をつくり上げていくことが必要である。これにより、長崎にしかない歴史・文化を世界中の人々に体験・実感してもらうことが「観光の発祥地」としての責務である。

国際ゲートウェイとしての役割【今回追加】 P14

- 観光立国の観点から、新幹線を通じて東アジアと国内各地を繋げることが長崎の役割である。

【課題】 P10~P12

- ◆平和の尊さと大切さの継承
 - ・被爆から60年以上が経過し、被害者の高齢化が進み、被爆体験の風化が危惧されている。
 - ・平和の大切さを将来に継承するためのまちづくりが今後の課題。
- ◆産業としての観光再生
 - ・観光は、観光関連産業に加え、農林水産業や商工業等の幅広い産業に対する生産や雇用機会の増大に大きな波及効果をもたらす長崎市を支える基幹産業としての期待は極めて大きい。
 - ・本地域には、世界遺産候補等の歴史、祭り・人々の生活・食等の独特な文化をはじめ、様々な地域資源(商業、高度医療)がある。これらは長崎市の経済発展に寄与するための地域の資源であるとの認識を高めつつ、産業振興につなげていくことが課題。特に、県産品を中心とした食を磨き、観光客への提供を強化し、これらを産業振興に繋げていくことが必要。
 - ・大規模な大会・会議が実施できる大型コンベンション施設の不足が課題。
- ◆世界遺産のまちに相応しい質の高い景観形成の展開が必要。
- ◆市民のホスピタリティを活かした観光再生が必要。
- ◆長崎独特の有形・無形の歴史・文化資源の活用が必要。
- ◆まちなかの再生と駅周辺整備による都市の活力と利便性の向上が必要。
- ◆密集市街地と斜面市街地の再編による住環境の改善が必要。
- ◆離島や東アジア・世界に繋がる玄関として高速・広域交通機能の強化が必要。
- ◆主要観光地・拠点を快適に廻れる環境にやさしい交通機能の充実が必要。
- ◆観光客、市民、県民にやすらぎを与える広場や公園の充実が必要。

【地域の目指すべき姿】 P15

平和と文化の国際交流拠点都市 長崎の再生

【整備目標】 P15

目標Ⅰ 都市の魅力の強化

目標Ⅱ 回遊機能の強化

目標Ⅲ 国際ゲートウェイ機能の強化

- 世界へ被爆者の声や願いを発信し続けてきた長崎市にとって、国連安全保障理事会が核不拡散と核軍縮に関する首脳会議で「核兵器なき世界」の条件作りを目指す決議を採択したことを大きなチャンスと捉え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向け、「国際平和都市」として被爆の実相を伝え、平和学習・体験による交流を強化していく。
- 観光の発祥の地として、「観光」の原点に立ち返り、地域資源を磨き上げ、観光再生により交流人口を拡大し、その経済波及効果により、長崎市及び離島を含めた県全体の活力の再生・向上を目指す。
 - ・交流客を滞留させるため、二つの世界遺産候補など「歴史」「文化」等の資源をさらに磨きあげ、遺産の保全・再生、魅力あるまち並みの形成を図るとともに、産業、医療技術等も活用し新たな交流推進を目指す。
 - ・文化交流拠点都市再生のため、低未利用地等を活用し、コンベンション・集客・情報提供施設等の各種都市機能の充実・強化を進め、安心・安全で快適な都市の魅力を生み出し交流推進と雇用確保を目指す。
 - ・まちなかでの居住推進のため、暮らしに必要な機能の充実を図り、住む人にとっても魅力と活力のある都市を目指す。
 - ・環境に配慮した持続可能な都市づくりを推進するため、太陽光などの新エネルギーの利用促進や地域単位でのエネルギー効率を高めるための施設整備など、低炭素型の都市を目指す。
 - ・まち歩きを意識した回遊機能の強化により、安全・安心に歩くことができ、地域資源を学ぶことができる都市を目指す。
 - ・松が枝国際観光船ふ頭、新幹線長崎駅整備等の広域交通機能の強化を大きなチャンスと捉え、その効果を最大化させることにより、東アジアからの誘客等、さらなる交流人口の拡大、経済波及効果を目指す。
 - ・国際ゲートウェイ(海外の玄関口)機能の再生・強化により、幅広い分野での新たな需要を創出し、これを牽引力にして新たなまちの賑わいを創出することでさらなる民間投資を誘発し、魅力と活力のあるまちづくりを目指す。
 - ・更に、ゲートウェイ(玄関口)機能の強化により、離島との利便性を強化し、交流人口の拡大による経済効果に繋げていくとともに、県全体への経済波及効果を目指す。
 - ・以上の取り組みを進めていくことにより、観光立国(ビジット・ジャパン)を牽引する都市として再生を図る。

「整備目標」

「整備方針」と概要

目標Ⅰ
都市の魅力の強化

整備方針① P17
平和都市の魅力を磨き、世界に平和を発信する

- 原爆被爆者が高齢化し減少しつつあるなかで、原爆の悲惨さを伝え、平和の尊さと大切さを次世代に継承する。
- 核兵器廃絶と世界恒久平和を願う被爆地として、平和宣言や日本政府・各国の大使館への呼びかけを繰り返し実施することで被爆の実相を世界の人々に発信する。
- 世界各国のリーダーに長崎訪問を呼び掛けることや2020年の夏季五輪の広島・長崎両市共同開催の誘致の可能性を検討するなど、長崎を訪れ、核兵器による惨事や被害の実相を知っていただく取り組みを進める。
- 長崎を訪れる多くの人々が被爆の実相を感じられるよう、原爆資料館を中心に、被爆都市長崎を象徴する平和公園の利便性の向上や周辺に残る被爆遺構の保存の取り組み等、関連施設の充実を図る。

整備方針② P18
世界遺産候補など、多様な歴史・文化等の資源を磨く

- 世界遺産候補など、多様な歴史・文化の資源の魅力を磨く
- 国内外の多くの観光客を誘致するため、長崎特有の歴史・文化(文化行事等・芸術・食・工芸品)、景観(夜間景観含む)など、様々な地域資源をさらに磨き上げ見せる。特に、県産品を中心とした食を磨き、観光客への食の提供を強化する。
- 2つの世界遺産候補である「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「九州・山口の近代化産業遺産群」や国指定史跡「出島和蘭商館跡」などの遺産を後世に引き継ぐため、それらの保存・活用を図る。
- 「蘭」(オランダ)の旧居留地の東山手・南山手、「華」(中国)の唐人屋敷跡、「和」(日本)の雰囲気丸山周辺、中島川周辺と中通り・寺町周辺や斜面市街地など、長崎にしかない魅力を高めるまちづくりを推進する。
- 商業、産業、医療などの資源の魅力を新たな視点で磨く
- アジア地域を中心とした外国人観光客の誘致を積極的に進めるため、商業、産業、医療技術等の分野を活用した都市の魅力を磨き、情報を発信し、新たな交流を推進する。
- 商業の魅力を磨くため、既存中心商店街などにおいて、商店街としての線から、まちとしての面と捉え、一体的にマネジメントするなど、まちの活性化を進める。また、拠点商業機能の連携を図るとともに朝市等の食の推進や中国人をはじめとした外国人観光客をターゲットとした取り組みを推進する。
- 産業の魅力を磨くため、日本の近代化を推進してきた造船産業や、造船から派生した環境や新エネルギー関連の世界トップクラスを誇る技術力、長崎港内港地区の工場景観等の見学など、産業をテーマとした新たな観光について検討を進める。
- 日本で初めての西洋式病院である長崎大学病院をはじめとする医療機関の集積が高いことや、医療・福祉分野の業種ウェイトが高いことを活かし、観光と医療サービスをセットにしたパッケージツアーや老人介護サービス施設見学など、新たな観光について検討を進める。

整備方針③ P19
長崎の大景観を保全・形成する

- 山の上からのパノラマのほか、海から見上げたまちと緑と空のひろがり、まちから海・山への眺望など多様な長崎の大景観を保全・育成するために、稲佐山や金比羅山の緑の保全を図り、主要な視点場から海・山・まちへの眺望確保を重視することとし、必要に応じて眺望確保のために建物の高さ規制等を検討する。
- 急峻な地形という制約条件を逆手にとり、都市整備の方法や建物の建て方に着目して長崎型斜面居住の魅力づくりを進める。
- 業務、商業、日常生活の各都市活動が混在しているまちなか部は、雑然とした印象を与えがちであるが、それを魅力として育成し、長崎型都市居住の魅力づくりを進める。
- 長崎が歩んできた歴史・文化を今日に伝える洋館や出島、中華街、被爆と復興、平和公園、造船等の工場景観等、それぞれ異なった情緒のある界限では、その特徴を構成する建物や道路等の更新により、その場所性が失われてしまいがちであるため、その雰囲気を保全し、特徴ある街並み景観を積極的に育成する。
- 市民・県民が環境美化の意識を高め、地域住民によるボランティア清掃などを推進することにより、ごみの拡散をなくして生活環境の保全を図り、快適な生活を実現させる。また、このことにより、交流客へのおもてなしに繋げていく。特に、たばこのポイ捨てなどの防止については、市民と連携して啓発の強化を図る。

整備方針④ P20
コンベンション機能等、官民一体となった都市機能の強化と新たな需要を創出する

- 長崎の陸のゲートウェイ(玄関口)となる新幹線長崎駅周辺やまちなかにおいて、既存商店街と連携しつつ、商業・業務・公共公益・交流・居住機能等を充実・強化し、長崎駅周辺は「交流のまち長崎の玄関口」として、まちなかは「多様な都市機能が集積した賑わいと歴史・文化の中心」として国際都市にふさわしい中枢拠点を形成する。
- コンベンションの開催は経済波及効果と都市のイメージアップが期待できることから、長崎の魅力を活かしたコンベンションの誘致と機能の強化を積極的に推進する。
- 中国人をはじめ外国人観光客のニーズを踏まえながら、インセンティブなどのMICEについて推進する。
- 老朽ビルの再開発や低未利用地の活用等により商業・業務・交流・居住機能等を充実・強化し、安心・安全で快適な都市としての魅力を高める。また、再開発に関連して、集客・宿泊施設やコールセンター等の業務機能を充実し、雇用の場の確保に努める。
- 市民・県民の暮らしに必要な機能(医療・高齢者福祉・子育て支援・公共公益等)の充実を図り、市民・県民が生き生きと楽しく暮らしやすい環境づくりを進めることにより、交流客にとってのもてなしの環境を形成する。
- 斜面住宅市街地では、老朽住宅の建て替えを図りながら、共同化・協調化や不燃化を促進し、住環境の改善と防災性の向上に配慮した住環境を形成するとともに、乗り合いタクシーやゴミだし援助等のソフト整備により定住可能な地域としての維持に努める。
- 観光客、県民・市民が訪れ、住まうことにより、人々の交流を促進し、商業機能の再生を図る。

整備方針⑤ P21
環境に配慮した都市・交通機能を強化する

- 地球環境への負荷を軽減するため、太陽光などの新エネルギーの導入促進や地域単位でのエネルギー効率を高めるための施設整備を推進する。
- 市街化区域の緑の現存量は低い状況にあり、市街地緑地の保全や公共施設の緑化など市街地への緑化を推進すると同時に、ヒートアイランド現象による市街地の温度上昇を抑えて快適な生活環境を生み出すため、市街化区域の緑化を推進する。
- 環境に配慮しつつ広域交通機能の利便性を高めるために、路面電車を中心とした公共交通機関のシステムの拡充・強化の検討や、駐車場・駐輪対策、パーク&ライド、路面電車の利用促進、モビリティマネジメント等の取り組みを推進する。
- 新幹線は、地球環境への負荷の軽減を図るため重要な広域交通手段であり、誘客の利用拡大を図る。

目標Ⅱ
回遊機能の強化

整備方針⑥ P22
道路・公共交通・歩行者動線等のネットワーク整備を充実・強化する

- 長崎駅前や中央橋などの交通結節点と点在する生活や観光の拠点を、市民や県民、観光客が円滑に往来できるようにするため、道路・公共交通の機能を強化するとともに、歩行者ネットワークの向上を図る。
- 道路機能では、長崎駅前の交通渋滞緩和や浦上川で分断されている東西市街地のネットワークの改善などを図るため、市街地内幹線道路の整備を進める。
- 公共交通では、都心部循環バス「らんらん」の運行ルートの見直しや路面電車を中心とした公共交通機関のシステム充実・強化の検討などを進め、公共交通のサービス向上を図る。
- 歩行者動線では、新たに長崎駅周辺と浦上川右岸とを連絡する歩行者動線等の強化や重点地域内の回遊性向上を図る。特に、主要な歩行者動線を明確にするなど、わかりやすい歩行空間のネットワークを形成するとともに、歩道橋の撤去や電停のバリアフリー化など、ユニバーサルデザインを推進する。

整備方針⑦ P23
さるくまちとしての機能を充実・強化する

- 市民ガイドによるまち歩きを活性化し、まち歩きメニューの充実を図り、情報発信を行い都市の魅力として定着を図る。特に、平成22年1月から放送予定の大河ドラマ「龍馬伝」を活かした取り組みの中で、「長崎と龍馬幕末の志士の関わり」や「日本の近代化に果たした長崎のまちの魅力」を発信し、魅力ある体験メニュー等を提供する。
- 観光客、県民・市民が安全・快適に歩行できるよう、総合案内所や案内表示を充実させるとともに、新たに休憩場所を整備するなど、さるくまちの機能を充実する。特に、「龍馬伝」を活かした取り組みの中で、龍馬関連コース等の中心市街地を巡る長崎さるくのガイドステーションを併用した(仮称)ナガサキインデックス#21の整備により、中心市街地への観光客の誘客や滞在時間の延長を促し、地域の活性化に繋げて行く。
- 「蘭」(オランダ)の旧居留地の東山手・南山手、「華」(中国)の唐人屋敷跡、「和」(日本)の雰囲気丸山周辺、中島川周辺と中通り・寺町周辺など、長崎にしかない魅力を高めるまちづくりを推進する。【再掲】

目標Ⅲ
国際ゲートウェイ機能の強化

整備方針⑧ P24
新幹線と国際・離島航路の接続等により広域交通機能の魅力を向上する

- 長崎の陸のゲートウェイ(玄関口)となる新幹線長崎駅周辺、海のゲートウェイ(玄関口)となる松が枝国際観光船ふ頭においては、周辺地域のまちづくりとの連携を強化し、国際都市にふさわしい拠点を形成し、拡大する交流人口をまちなかへ誘導する。また、空のゲートウェイ(玄関口)となる長崎空港との連絡も強化する。
- 東アジアと長崎、国内と長崎の広域交通機能の強化を図るため、新幹線長崎駅と国際・離島航路を直結する新たな機能を導入し、広域交通機能の利便性の向上を図る。特に、陸・海のゲートウェイ(玄関口)を結びつけることにより、離島への利便性を高め、観光客の誘導により離島の活性化と産業振興に繋げていく。更に、県内各地の観光地へ観光客を誘導し、県全体の産業振興に繋げていく。
- 長崎をクルーズの起点港としたフライ&クルーズ・レール&クルーズのツアー企画等のソフト施策により、東アジアを中心とする外国人観光客や国内観光客の誘致を促進する。

「整備目標」

「整備方針」と概要

目標Ⅰ
都市の魅力の強化

整備方針① P17
平和都市の魅力を磨き、世界に平和を発信する

- 原爆被爆者が高齢化し減少しつつあるなかで、原爆の悲惨さを伝え、平和の尊さと大切さを次世代に継承する。
- 核兵器廃絶と世界恒久平和を願う被爆地として、平和宣言や日本政府・各国の大使館への呼びかけを繰り返し実施することで被爆の実相を世界の人々に発信する。
- 世界各国のリーダーに長崎訪問を呼び掛けることや2020年の夏季五輪の広島・長崎両市共同開催の誘致の可能性を検討するなど、長崎を訪れ、核兵器による惨事や被害の実相を知っていただく取り組みを進める。
- 長崎を訪れる多くの人々が被爆の実相を感じられるよう、原爆資料館を中心に、被爆都市長崎を象徴する平和公園の利便性の向上や周辺に残る被爆遺構の保存の取り組み等、関連施設の充実を図る。

整備方針② P18
世界遺産候補など、多様な歴史・文化等の資源を磨く

- ◎世界遺産候補など、多様な歴史・文化の資源の魅力を磨く
- 国内外の多くの観光客を誘致するため、長崎特有の歴史・文化(文化行事等・芸術・食・工芸品)、景観(夜間景観含む)など、様々な地域資源をさらに磨き上げ見せる。特に、県産品を中心とした食を磨き、観光客への食の提供を強化する。
- 2つの世界遺産候補である「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「九州・山口の近代化産業遺産群」や国指定史跡「出島和蘭商館跡」などの遺産を後世に引き継ぐため、それらの保存・活用を図る。
- 「蘭」(オランダ)の旧居留地の東山手・南山手、「華」(中国)の唐人屋敷跡、「和」(日本)の雰囲気丸山周辺、中島川周辺と中通り・寺町周辺や斜面市街地など、長崎にしかない魅力を高めるまちづくりを推進する。
- ◎商業、産業、医療などの資源の魅力を新たな視点で磨く
- アジア地域を中心とした外国人観光客の誘致を積極的に進めるため、商業、産業、医療技術等の分野を活用した都市の魅力を磨き、情報を発信し、新たな交流を推進する。
- 商業の魅力を磨くため、既存中心商店街などにおいて、商店街としての線から、まちとしての面と捉え、一体的にマネジメントするなど、まちの活性化を進める。また、拠点商業機能の連携を図るとともに朝市等の食の推進や中国人をはじめとした外国人観光客をターゲットとした取り組みを推進する。
- 産業の魅力を磨くため、日本の近代化を推進してきた造船産業や、造船から派生した環境や新エネルギー関連の世界トップクラスを誇る技術力、長崎港内港地区の工場景観等の見学など、産業をテーマとした新たな観光について検討を進める。
- 日本で初めての西洋式病院である長崎大学病院をはじめとする医療機関の集積が高いことや、医療・福祉分野の業種ウェイトが高いことを活かし、観光と医療サービスをセットにしたパッケージツアーや老人介護サービス施設見学など、新たな観光について検討を進める。

整備方針③ P19
長崎の大景観を保全・形成する

- 山の上からのパノラマのほか、海から見上げたまちと緑と空のひろがり、まちから海・山への眺望など多様な長崎の大景観を保全・育成するために、稲佐山や金比羅山の緑の保全を図り、主要な視点場から海・山・まちへの眺望確保を重視することとし、必要に応じて眺望確保のために建物の高さ規制等を検討する。
- 急峻な地形という制約条件を逆手にとって、都市整備の方法や建物の建て方に着目して長崎型斜面居住の魅力づくりを進める。
- 業務、商業、日常生活の各都市活動が混在しているまちなか部は、雑然とした印象を与えがちであるが、それを魅力として育成し、長崎型都心居住の魅力づくりを進める。
- 長崎が歩んできた歴史・文化を今日に伝える洋館や出島、中華街、被爆と復興、平和公園、造船等の工場景観等、それぞれ異なった情緒のある界限では、その特徴を構成する建物や道路等の更新により、その場所性が失われてしまいがちであるため、その雰囲気を保全し、特徴ある街並み景観を積極的に育成する。
- 市民・県民が環境美化の意識を高め、地域住民によるボランティア清掃などを推進することにより、ごみの拡散をなくして生活環境の保全を図り、快適な生活を実現させる。また、このことにより、交流客へのおもてなしに繋げていく。特に、たばこのポイ捨てなどの防止については、市民と連携して啓発の強化を図る。

整備方針④ P20
コンベンション機能等、官民一体となった都市機能の強化と新たな需要を創出する

- 長崎の陸のゲートウェイ(玄関口)となる新幹線長崎駅周辺やまちなかにおいて、既存商店街と連携しつつ、商業・業務・公共公益・交流・居住機能等を充実・強化し、長崎駅周辺は「交流のまち長崎の玄関口」として、まちなかは「多様な都市機能が集積した賑わいと歴史・文化の中心」として国際都市にふさわしい中枢拠点を形成する。
- コンベンションの開催は経済波及効果と都市のイメージアップが期待できることから、長崎の魅力を活かしたコンベンションの誘致と機能の強化を積極的に推進する。
- 中国人をはじめ外国人観光客のニーズを踏まえながら、インセンティブなどのMICEについて推進する。
- 老朽ビルの再開発や低未利用地の活用等により商業・業務・交流・居住機能等を充実・強化し、安心・安全で快適な都市としての魅力を高める。また、再開発に関連して、集客・宿泊施設やコールセンター等の業務機能を充実し、雇用の場の確保に努める。
- 市民・県民の暮らしに必要な機能(医療・高齢者福祉・子育て支援・公共公益等)の充実を図り、市民・県民が生き生きと楽しく暮らしやすい環境づくりを進めることにより、交流客にとってのもてなしの環境を形成する。
- 斜面住宅市街地では、老朽住宅の建て替えを図りながら、共同化・協調化や不燃化を促進し、住環境の改善と防災性の向上に配慮した住環境を形成するとともに、乗り合いタクシーやゴミだし援助等のソフト整備により定住可能な地域としての維持に努める。
- 観光客、県民・市民が訪れ、住まうことにより、人々の交流を促進し、商業機能の再生を図る。

「整備目標」

「整備方針」と概要

目標Ⅰ
都市の魅力の強化

整備方針⑤ P21
環境に配慮した都市・交通機能を強化する

- 地球環境への負荷を軽減するため、太陽光などの新エネルギーの導入促進や地域単位でのエネルギー効率を高めるための施設整備を推進する。
- 市街化区域の緑の現況量は低い状況にあり、市街地緑地の保全や公共施設の緑化など市街地への緑化を推進すると同時に、ヒートアイランド現象による市街地の温度上昇を抑えて快適な生活環境を生み出すため、市街化区域の緑化を推進する。
- 環境に配慮しつつ広域交通機能の利便性を高めるために、路面電車を中心とした公共交通機関のシステムの拡充・強化の検討や、駐車場・駐輪対策、パーク&ライド、路面電車の利用促進、モビリティマネジメント等の取り組みを推進する。
- 新幹線は、地球環境への負荷の軽減を図るため重要な広域交通手段であり、誘客の利用拡大を図る。

目標Ⅱ
回遊機能の強化

整備方針⑥ P22
道路・公共交通・歩行者動線等のネットワーク整備を充実・強化する

- 長崎駅前や中央橋などの交通結節点と点在する生活や観光の拠点とを、市民や県民、観光客が円滑に往来できようにするため、道路・公共交通の機能を強化するとともに、歩行者ネットワークの向上を図る。
- 道路機能では、長崎駅前の交通渋滞緩和や浦上川で分断されている東西市街地のネットワークの改善などを行うため、市街地内幹線道路の整備を進める。
- 公共交通では、都心部循環バス「らんらん」の運行ルートの見直しや路面電車を中心とした公共交通機関のシステム充実・強化の検討などを進め、公共交通のサービス向上を図る。
- 歩行者動線では、新たに長崎駅周辺と浦上川右岸とを連絡する歩行者動線等の強化や重点地域内の回遊性向上を図る。特に、主要な歩行者動線を明確にするなど、わかりやすい歩行空間のネットワークを形成するとともに、歩道橋の撤去や電停のバリアフリー化など、ユニバーサルデザインを推進する。

整備方針⑦ P23
さるくまちとしての機能を充実・強化する

- 市民ガイドによるまち歩きの仕事を活かして、まち歩きメニューの充実を図り、情報発信を行い都市の魅力として定着を図る。特に、平成22年1月から放送予定の大河ドラマ「龍馬伝」を活かした取り組みの中で、「長崎と龍馬ら幕末の志士の関わり」や「日本の近代化に果たした長崎のまちの魅力」を発信し、魅力ある体験メニュー等を提供する。
- 観光客、県民・市民が安全・快適に歩行できるよう、総合案内所や案内表示を充実させるとともに、新たに休憩場所を整備するなど、さるくまちの機能を充実する。特に、「龍馬伝」を活かした取り組みの中で、龍馬関連コース等の中心市街地を巡る長崎さるくのガイドステーションを併用した(仮称)ナガサキインデックス#21の整備により、中心市街地への観光客の誘客や滞在時間の延長を促し、地域の活性化に繋げて行く。
- 「蘭」(オランダ)の旧居留地の東山手・南山手、「華」(中国)の唐人屋敷跡、「和」(日本)の雰囲気丸山周辺、中島川周辺と中通り・寺町周辺など、長崎にしかない魅力を高めるまちづくりを推進する。【再掲】

目標Ⅲ
国際ゲートウェイ機能の強化

整備方針⑧ P24
新幹線と国際・離島航路の接続等により広域交通機能の魅力を向上する

- 長崎の陸のゲートウェイ(玄関口)となる新幹線長崎駅周辺、海のゲートウェイ(玄関口)となる松が枝国際観光船ふ頭においては、周辺地域のまちづくりとの連携を強化し、国際都市にふさわしい拠点を形成し、拡大する交流人口をまちなかへ誘導する。また、空のゲートウェイ(玄関口)となる長崎空港との連絡も強化する。
- 東アジアと長崎、国内と長崎の広域交通機能の強化を図るため、新幹線長崎駅と国際・離島航路を直結する新たな機能を導入し、広域交通機能の利便性の向上を図る。特に、陸・海のゲートウェイ(玄関口)を結びつけることにより、離島への利便性を高め、観光客の誘導により離島の活性化と産業振興に繋げていく。更に、県内各地の観光地へ観光客を誘導し、県全体の産業振興に繋げていく。
- 長崎をクルーズの起点港としたフライ&クルーズ・レール&クルーズのツアー企画等のソフト施策により、東アジアを中心とする外国人観光客や国内観光客の誘致を促進する。